

<b>【科目名】</b> リハビリテーション工学		<b>【担当教員】</b> 佐藤 成登志・星野浩通 (メールアドレス) hoshino@nur.ac.jp (オフィスアワー) 授業開講日、非常勤講師控室にて対応 A 棟 星野研究室にて常時対応							
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野 (臨床医学)	<b>【授業コード】</b> 2-12-0345-0-1								
<b>【開講時期】</b> 2 年次 後期	<b>【選択必修】</b> PT・OT 必修/ST 選択								
<b>【単位数】</b> 2 単位	<b>【コマ数】</b> 15 コマ								
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件)  (受講のルールに関わる情報・予備知識)									
<b>【講義概要】</b> (目的) 理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。 (方法) 介護の実践、福祉機器について紹介を行いつつ、工学の視点から理学療法について理解を深める講義を行う。									
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 人間の動作や姿勢を力学的に理解し説明できる。生活支援工学の種類や使用方法を理解できる。 <b>【行動目標(SBO)】</b>									
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> プリントを配布します。									
<b>【参考書】</b> 講義中に紹介します。									
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 本講義に関する記述式試験を実施する。成績評価基準は本学学則規定の G P A 制度に従う。 出席状況、定期試験および受講態度から評価を行う。									
<b>【達成度評価】</b>		試験	小テ スト	レポート	成果発 表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		50		20	30				100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	25							
	思考・推論・創造の力	25							
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				
	学修に取り組む姿勢			20					

平成 26～28 年度入学者用

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営 方法	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション(講義の流れ、生活支援・ 生体工学について) 佐藤成登志	講義		
2	リハビリテーション工学の概論 佐藤成登志	講義		
3	生体工学(バイオメカニズムに関する用語) 佐藤成登志	講義		
4	生体工学(バイオメカニズムに関する用語) 佐藤成登志	講義		
5	生体工学(具体的な用途)① 佐藤成登志	講義		
6	生体工学(具体的な用途)② 佐藤成登志	講義		
7	生体工学(具体的な用途)③ 佐藤成登志	講義		
8	生体工学(具体的な用途)演習① 佐藤成登志	講義		
9	生体工学(具体的な用途)演習② 佐藤成登志	講義		
10	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技 術と福祉用具)①星野浩通	講義		
11	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技 術と福祉用具)演習①星野浩通	演習		
12	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技 術と福祉用具)②星野浩通	講義		
13	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技 術と福祉用具)演習②星野浩通	演習		
14	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技 術と福祉用具)③星野浩通	講義		
15	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技 術と福祉用具)演習③星野浩通	演習		
15	まとめ	講義		

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。